引用文献の書き方

1. 引用文献と参考文献

・引用文献 … 理論的背景や考察を論じるとき、他者の考えや研究結果を間接的に、あるいは原典のまま引用したものを指す

・参考文献 … 自分の論述を展開する中で示唆を受けたもの、あるいは自分の研究と特に関わりの深い論文や著書を指す

2. 本文中の引用

・直接引用と間接引用

・本文中で引用する場合、その著者の姓と出版年を記述する。

▼著者が 1 人の場合

文中の場合　「Worden(1991)は…と述べている。」
「柏木(1987)によれば…」

文末の場合　「一般的に、遺された家族関係の均衡を破るもっとも解決の難しい喪失として子どもの死が挙げられてきた（Oliver, 1999)。」
「トラウマを直接扱う精神療法の一つに、認知療法がある（小西, 2000)。」

▼著者が 2 人の場合

文中の場合　「Parkes & Weiss(1983) は…と報告している。」
「北海道南西沖地震の被災者に関する研究（藤森・藤森, 1996）によると…」

文末の場合　「悲嘆からの回復には１年から２年の年月が必要であるとされている（若林・小島, 1992)。」

※著者が 2 人の場合は、参照するたびごとに必ず両方の姓を書く。

▼著者が 3 人以上の場合

文中の場合　「Shanfield, Benjamin,& Swain(1987)は、…について検討している。」
「犯罪被害者実態調査（宮澤・田口・高橋, 1996）によると、…」

文末の場合　「同じ経験をした人の存在も遺族にとっては大きな意味をもつ（Lehman, Ellard,& Wortman, 1986)。」

※著者が 3 人以上の場合は、最初に引用したときに全員の姓を書く。但し、最初の引用後、再度同じものを引用する場合は、次のように省略することができる。

↓

文中の場合　「Shanfield et al.(1987) は…」
「宮澤他(1996) は…」「宮澤ら(1996) は…」

文末の場合　「…という結果が得られている（Lehman et al.,1986)。」

▼引用文献の順序

本文中の同一箇所でいくつかの文献を引用するときは、同じ括弧内に著者の姓のアルファベット順に並べて、それらをセミコロンで区切る。

例）「一般的に、遺された家族関係の均衡を破るもっとも解決の難しい喪失として子どもの死が挙げられてきた（Oliver,1999；Worden,1991）。」

3. 文献の配列順序

・日本語文献と外国語文献とは分けずに、著者の姓のアルファベット順に並べる。
・同じ姓の著者が複数いたら、名前の頭文字のアルファベット順に並べる。
・同一著者の文献がいくつかある場合、出版年の早いものから順に並べる。
・同じ年に刊行された同一著者の文献がいくつかある場合、本文と文献の両方で、年次を示す数字の直後にアルファベット小文字 a,b,c,…を付して区別する。
　例) 2001a, 2001b,…
・共著の場合は、第１著者の姓により、アルファベット順に並べる。
・第１著者が同一で、第２著者が異なるときは、第２著者の姓のアルファベット順に並べる。
・同一著者が単独で発表している文献と、その著者が第１著者として名を連ねている共著の文献とがある場合には、単独発表のものを先に並べる。

４．書籍・雑誌論文等の書き方

▼単独著書 … 著者、刊行年次、著書名、出版社名の順に書く

和書の場合　西澤哲　(1999).　トラウマの臨床心理学　金剛出版

洋書の場合　Brehm,J.W.　(1966).　*A theory of psychological reactance.*　New York：Academic Press.

※和書の場合、カンマは使わない

※洋書の場合、書名はイタリック体で書く

▼編集書

和書の場合　松井豊（編）(1997).　悲嘆の心理　サイエンス社

洋書の場合　Berkowitz,L.(Ed.) . (1970).　*Advances in experimental social psychology.* Vol.5. New York：Academic Press.

※(Ed.)は editor の略。編者が 2 人以上の場合は(Eds.)とする

▼編集書の中の一章 … 著者、刊行年次、題目、編者、著書名、出版社、ページの順に書く

和書の場合　藤森和美　(1997).　災害被災者の精神健康と回復への援助　松井豊（編）悲嘆の心理（pp.185-202）サイエンス社

洋書の場合　McGuire,W.J.　(1968).　The nature of attitude and attitude change. In G.Lindzey & E.Aronson (Eds.). *Handbook of social psychology.* 2nd ed. Vol.3. (pp.136-314).　Addison Wesley.

※洋雑誌の場合、編者の姓名の順に注意

▼翻訳書

Herman,J.L. (1992). *Trauma and recovery*. Basic Books. （中井久夫（訳）（1996). 心的外傷と回復　みすず書房）

▼事典・辞書などの項目

土肥伊都子　(2019). ワークライフバランス　日本健康心理学会(編)　健康心理学事典（pp.592-593）丸善出版

▼雑誌論文 … 著者、発行年次、論文題目、雑誌名、巻数、ページの順に書く

和雑誌の場合　岡安孝弘・嶋田洋徳・坂野雄二　(1993). 中学生におけるソーシャル・サポートの学校ストレス軽減効果　教育心理学研究, *41*(3), 302-312.

洋雑誌の場合　Lehman,D.R.,Wortman,C.B.,& Williams,A.F. (1987). Long-term effects of losing a spouse or child in a motor vehicle crash. *Journal of Personality and Social Psychology*, *52*(1), 218-231.

※カンマ、ピリオドの位置に注意

※和雑誌・洋雑誌とも巻数はイタリック体で書く

※洋雑誌の場合、雑誌名はイタリック体で書く

▼大学の紀要論文

上野淳子　(2012). ジェンダーおよび学歴による将来像の違い　四天王寺大学紀要, *54*, 183-196.

▼卒業論文・学位論文

亀川文　(2005). 家族との死別における周囲のサポートについて　神戸松蔭女子学院大学卒業論文（未公刊）

▼学会発表論文集

青野篤子　(1993). 性役割ステレオタイプに及ぼす反証情報の効果　日本社会心理学会第34回大会発表論文集, 62-65.

▼インターネット上の資料からの引用

内閣府男女共同参画局　(2016). 男女共同参画社会に関する世論調査. http://www.gender.go.jp/research/yoron/index.html（2019年11月13日取得）